

科目区分	専門分野	授業科目	小児看護援助論
講師	看護教員	実務経験の有無	有
単位数(時間)	2単位(30時間)	開講年次	2年次 第1学期
授業概要 *講師からのメッセージ	病気や障害をもつ子どもと家族の看護を行うためには、子どもの理解や家族への影響を考慮して行う必要があります。子どもの特性をふまえた看護援助の視点を学びましょう。		
目的:子どもと家族の看護を理解する 目標:1.疾病の経過と発達段階をふまえた看護を理解する 2.小児看護特有の看護援助を理解する			
回	授 業 内 容	授 業 方 法	
1	1.病気・障害を持つ子どもと家族の看護 1)子どもの反応、子どもの対処方法、家族の反応	講義	
2	2.子どもの入院がきょうだい・家族に及ぼす影響と看護 1)親の支援 2)きょうだいの支援 3)家族関係の調整と社会資源の活用 3.小児の入院環境 1)活動制限が必要な子どもと家族の看護 2)感染症の対応と免疫不全(低下)の対応 (1)隔離の目的・方法 (2)隔離の身体的・心理的影響	講義	
3	4.子どもにおける疾病の経過と看護 1)慢性期(継続看護・在宅看護)、急性期	講義	
4	5.手術を受ける子どもと家族の看護 1)周手術期 6.健康障害に応じた経過と看護 1)終末期 2)災害時	講義	
5~6	7.子どもに出現しやすい症状と看護	講義	
7~8	8.子どもの成長発達に応じた日常生活の援助技術 1)コミュニケーション 2)遊び 3)学習 4)フィジカルアセスメント 5)検査(採尿)、処置(腰椎穿刺)	講義 演習	
9	9.外来受診や入院を必要とする小児の看護 1)外来における子どもと家族の看護 (1)緊急度の把握・トリアージ 10.障害のある子どもと家族の看護 11.子どもの虐待と看護	講義	
10	12.外来や入院における治療・検査への意思決定への支援 1)病気に対する子どもの理解と説明(1回目の想起) 2)プリパレーション、ディストラクション 3)インフォームドコンセント	演習	
11~15(45分)	子ども(家族を含む)の疾患の経過と発達段階をふまえた看護の考え方と看護過程 疾患名:川崎病(幼児期) 健康段階:急性期~回復期	講義	
16(45分)	終了試験		
評価方法	筆記試験(85点)1~10回:70点、11~15回:15点 課題(15点) 評価基準参照		
テキスト	医学書院:系統看護学講座 専門分野 小児看護学 1 小児看護学概論・小児臨床看護総論		
参考書	医学書院:系統看護学講座 専門分野 小児看護学 2 小児臨床看護各論		
備考	特記なし		